

【ポスターセッション】

ハワイ州オアフ島における日系高齢者を対象とした長期ケアの現状と課題 —NPO 法人若葉ネットワークの創設の背景とその活動から—

○ 関西学院大学 石川 久展 (会員番号 876)

キーワード：長期ケア、日系高齢者、ハワイ州

1. 研究目的

ハワイ州の総人口は、2012年現在、約140万人であるが、65歳以上の高齢者の人口比率は15.6%と、全米の平均の13.7%を大きく上回っており、ハワイ州の高齢化は他州よりも顕著である。ハワイ州の高齢化の特徴は、高齢化のスピードが他州と比較して速いこと、また、人種別の高齢化に大きな差があることなどがあげられている。ハワイ州の日系人口は、州総人口の約4分の1(約31万人)であり、白人系、フィリピン人系に続き、3番目に人口の多い人種となっている。ハワイ州の人種別人口データによると、60歳以上の高齢者が多い人種は、白人系と日系であり、この2つのグループは、他のグループと比較して、高齢者の比率が極めて高く、高齢化が一層顕著となっていることが指摘されている。

以上のようなハワイ州の高齢化の問題を背景に、近年、ハワイ州でも日系人が多く住むオアフ島においては、日系高齢者の要介護状態や認知症に対する長期ケアの問題が深刻化しつつある。彼らの中には、日本語や日本食、丁寧でかつ思いやりのある介護など、日本的なケアを求める高齢者が多いが、その一方では、日系人を対象とした日本語による高齢者の支援や長期ケアの相談窓口、また、日系高齢者を対象とした長期ケアサービスがほとんどないのが現状である。このような状況の中で、ここ数年、日本語を話せる日系人の中で高齢者支援や長期ケアに本格的に取り組もうとする動きがいくつか出てきている。そこで、本研究では、ハワイ州オアフ等の日系高齢者の高齢化や高齢者支援や長期ケア施策の問題点を踏まえつつ、約1年半前に活動をスタートした日本語による様々な問題の相談・支援を実践するNPO法人「若葉ネットワーク」を取り上げ、その法人設立の背景や経緯、支援方法や内容等を紹介することにより、オアフ島における日系高齢者の支援や長期ケアの現状と課題について考察してみたい。

2. 研究の視点および方法

研究方法については、本研究テーマに関する先行研究や調査データが皆無であること、本研究で取り上げる若葉ネットワークの働きがハワイ州でも先例のない先駆的な福祉実践であること、また、一つのユニットや境界づけられたシステムの集合的な記述の分析視点の必要性(メリアム 2004)から、インタビューによるケースステディ法を採用した。インタビューの対象となったのは、NPO法人若葉ネットワークの会長および理事2人であり、2014年6月および2014年11月の2回実施した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮としては、本研究を行うにあたり、インタビュー対象者に対し、本研究の趣旨を説明するとともに、得られた情報は本研究のみに用いることを明示し、了解を得た上で実施した。また、本研究の結果と考察の内容についても本人たちの了解を得た。

4. 研究結果

「若葉ネットワーク」は、2013年4月に創設された新しいNPO法人であるが、オアフ島において20年以上会社を運営してきたA氏が会社を辞め、退職後、高齢者に対するボランティア活動を行う中で、オアフ島には、日系高齢者や犯罪被害者のための日本語による相談窓口や支援がないことに気づき、日系人のための支援組織を創設するに至った。本NPO法人の創設には、A氏の会社経営時代に築いてきた様々なネットワークがベースとなっており、創設に際しては、現ハワイ総領事婦人、ホノルル日系人商工会議所、ハワイ商工会議所、日系人連合協会、日米協会、日本クラブ、ハワイ日本文化センター、ホノルル警察署や日系弁護士などの関係機関の協力を得ている。

若葉ネットワークは、ハワイ在住の日系高齢者とその家族の長期ケアに関する支援のみならず、日本からの長期滞在者や旅行者の中で貧困、DV、犯罪被害など様々な問題を抱える日系人・日本人を対象とし、情報提供や支援等のサポートを提供している。活動内容については、本会が活動を開始して間もないことから、それほどメニューはなく、高齢者支援、シニア用住宅の計画、被害者支援の3つがメインとなっている。若葉ネットワークは、電話による相談窓口を設け、日本語による総合相談窓口的な役割を果たしているとともに、会員によるボランティア活動も主な活動である。本会は会員制をとっており、会員は、すべてボランティアで構成されている。16項目ある活動項目の中でボランティア自身ができることを選択・登録し、相談者・利用者のニーズに応じてボランティアの依頼が来て、活動するシステムとなっている。2014年9月現在の会員登録数は70名である。

5. 考察

ハワイ州オアフ島には、若葉ネットワークが創設されるまで、日系高齢者の長期ケアや支援を提供する機関や組織は、日系人を主たる対象者としたデイケアセンター1カ所のみあるだけで、日本語による相談窓口は、これまで全く存在していなかった。ここ数年、ホノルルにある日系人向けラジオ KZOO に日系高齢者やその家族からの介護支援の相談が急増しており、そのニーズが高いことを考えると、若葉ネットワークの存在意義は非常に大きいといえる。ただし、本法人は活動開始して間もないこともあり、様々な大きな課題があることは否めない。まず、NPO法人の宿命とも言える財源の問題がある。会が大きくなればなるほど費用がかかるために会費だけで、今後、運営できるかという課題がある。次に、70名以上いるボランティアと相談者・利用者とのコーディネート課題がある。最後は、本会の存在は、創設後、様々な日系の雑誌で取り上げられてはいるが、まだ日系人社会の中で十分に周知されていないという課題がある。